



輝け 未来へ 中番校

No one will be left behind



令和3年度小野市学童展開催。今週から「トライやるウィーク」！

- Change (変革), Challenge (挑戦), Continue (継続) -

11月6日(土)、7日(日)の両日、令和3年度小野市学童展が、小野市伝統産業会館で開催されました。幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の子供達の作品が集まりました。私も6日の午後、会場係としてお手伝いをさせていただきました。6日は、親子で、家族で、友達同士で、おじいさん、おばあさん、地域の方々など、一日で約1400名の来場者がありました。昨年度もこのコロナ禍であり、感染症対策をしっかりと行った上で、開催しました。本年度も引き続き感染症対策を講じました。伝統産業会館入り口での検温、会場入り口での手指の消毒、来場者の方はスムーズに対応されていました。新しい生活様式が本当に定着していると感じました。どの作品も子供達の頑張りが見えていました。書写であれば、手本を見ながら、何度も、何度も練習したのでしょうか。本校でも、書写担当、担任を尋ねて作品を持って職員室へ来ていました。絵画であれば、どこをどのように描き、どのような色で、どのように塗ればいいのかを考え、取り組んだことだと思います。そんな作品の数々は、見る者に大いなる何かを感じさせるのだと思います。子供達が向き合った作品は、私達に働きかけ何かを感じさせる。そして、見る私達もそのことで何かを触発されるのだと思います。作品は子供達の手を離れ、見る者がそれを受け止めていく。芸術の世界は本当に不思議なものだと思います。ただ、手本と同じだから、綺麗だから、実物とそっくりだから、丁寧だから、といったものだけではなく、何かその作品の内面から滲み出るものを、鑑賞者の私達が受け取り、私達が新たに何かを想像するといった意味合いなのかもしれません。何かよく分からない、難しい感じになってしまいましたが、会場にある多くの

子供達の作品を見ながら、そのようなことを感じました。芸術の秋。美術館等を訪れ、多くの美術作品に触れるのもいいのではないかなと思います。

さて、今日から旭丘中学校の「トライやるウィーク」で3名の生徒が来てくれました。この「トライやるウィーク」は兵庫県が誇る教育施策です。始まって随分久しくなります。1週間、学校を離れ、自分の将来を視野に入れた職場体験等を行うものです。大きな意味で社会に出るイメージでしょうか。昨年度は、コロナ禍であり、1週間実施することはできませんでしたが、今年はほぼ例年通りに戻っています。実施できることは本当にありがたいことだと思います。生徒にとっては、身近な学校の先生という仕事だとは思いますが、その仕事の全体像を掴むよい機会かもしれません。自分達が想像していた学校の先生という仕事について、そのイメージが変わるかもしれません。何をおいても体験・経験は、何より重要です。中学生にとって貴重な体験・経験になることは間違いないと思います。是非、学び多い1週間にして欲しいと願っています。また、この「トライやるウィーク」は、本校の子供たちにとっても学びの場だと考えています。中学生にお兄さんやお姉さんがいる児童にとっては、ある程度、中学生を理解しているとは思いますが、そのような環境にない児童もいます。中学生とはいえ、自分とは異なる社会を生きる先輩です。興味や関心を持つことだろうと思います。この機会を通して、身近な先輩と普段できない関わりを持ち、繋がりを深めて欲しいと願っています。

体調管理が難しい時期です。服装は、体調に合わせて調節することが大切です。また、感染症対策については、「恐れず、正しく、適切に」対応し、感染症対策(朝の検温、マスクの着用【不織布マスクを推奨】、手洗い、手指の消毒、3密回避等)を徹底します。保護者の皆様のご理解とご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症についてご心配なことがございましたら遠慮なくご相談ください。中番小学校は、子供達、保護者の皆様、地域の皆様と共に歩んでいきます。